



「本当の自分」



「自分ってなんだろう?」「自分はこれからどこに向かっていけばいいのだろうか?」……みなさんはこんな風に思い悩んだことはありませんか。「自分らしく生きたい、ではどうすればいいのだろうか?」……自分の生き方に対する悩みは、とめどがなくなってしまうかもしれません。

ここにさわ爽やかなエピソードがあります。ノーベル賞作家川端康成かわばたやすなりの代表作『伊豆の踊子』おどりこの一場面です。

.....

「いい人ね。」

「それはそう、いい人らしい。」

「本当にいい人ね。いい人はいいね。」

……私自身にも自分をいい人だと素直に感じる事ができた。晴れ晴れと目を上げ、明るい山々を眺めた。

.....

20才の東京の大学生である主人公が、自分を見失い、いわば「自分探しの旅」に出かけた時に、踊り子である少女のこんなそぼく素朴な言葉に出会うのです。自分を素直にいい人と認め、自分の人間性に自信を持ち始めた主人公の心理が、「晴れ晴れと目を上げ、明るい山々を眺めた。」という一文に集約されているように思います。

これが本当の自分だという実感を心理学ではアイデンティティと言います。人はアイデンティティを自分でつかみ取り、自分の生きる意味を感じることを目標にして生きていると、ある心理学者は言っています。ただ、そのためには、自分でそう思うだけでなく、他の人や社会の承認が必要となります。周囲や社会も認め、自分もそう思える自分……そんな自分を知った時に、アイデンティティは確立されたことになるのではないのでしょうか。

『伊豆の踊子』の例で言えば、主人公が作者自身だとして、踊り子と出会ってからの作者川端康成は、大学を卒業後、日本人の感性やせんさい繊細さを文学にしょうか昇華させた名作を次々と発表していきます。もしかすると、踊り子の「いい人はいいね。」というあひとことどけない一言が、作者のアイデンティティ確立にひとやく一役買ったのかもしれません。

高校生のみなさんにとって、「これが自分だ、自分らしい生き方だ」という答えはまだ見つかっていないかもしれません。ただ、それを見つけるために全力で生きてみる……その先には本当の自分との出会いが待っているのではないのでしょうか。健闘を祈ります。